



塚本 逸彦 議員
(政清会)



問 昨今、地方の高等学校の維持存続が難しい中、町内には中札内高等養護学校幕別分校と幕別清陵高等学校の2校があり、生徒たちの地域貢献が大きい割に、学校行事を含め町民への情報発信や認知度は十分と言えない状況である。

学校としても多くの地域の皆さんとの繋がりを希望しており、地域連携を活発に行うことは、生徒の成長だけでなく、地域全体の発展にも大きく寄与することから、以下の点を伺う。

(1) 町内の小・中・高等学校の連携に向けたサポートの考えは。
(2) 学校祭など開放された学校行事や学校の様子を町広報紙への掲載協力は。



教育長 (1) 中札内高等養護学校幕別分校では、作業学習を活用し、幕別小学校の新生入生に入学のお祝いとして寄贈するランチョンマットを製作しているほか、町内小中学校の駐車場のライン引きを行っている。

問 町内の高校との協働活動について

答 学校間の連携支援など、できる限りのサポートをしていきたい

幕別清陵高等学校では、生徒が長期休業期間や放課後に学習補助を行うことなどにより、主体性や社会性を育む体験的活動を重視した教育活動に取り組んでおり、こうした連携は各学校間で連絡調整を行っている。

高等学校から学校存続に向け、中学校との連携について教育委員会に支援を望む声があることなどを踏まえ、教育委員会が調整役として学校間におけるマッチング機能を果たすなど、ニーズ把握や情報交換等が円滑に行えるよう、できる限りのサポートをしていきたい。



町長 (2) 広報紙を通じて地元の高等学校に通う学生の皆さんの活動をお知らせし学校の魅力を伝えることで、町内外の中学生の進学先として選択していただくきっかけとなるほか、地域をあげて学校を支援していく気運の醸成につながると考えていることから、今後、学校で行われる行事など、積極的に情報

報を発信していきたい。

問 将来に向けた公教育への取り組みについて

答 教育方法にこだわらず、注意深く検討していきたい



問 これからの世界を生き抜く子どもたちを育むため、多様な教育が各地でも行われ始めている。従来の一律な教育ではなく、子どもたち一人ひとりの違いを認め年齢や障がいなどを越えて共生した、「令和の日本型学校教育」での個別最適かつ協働的な学びの重要性が強調される新学習指導要領に沿った「イエナプラン(※1)」の導入校が全国で増えている中、幕別町の取組について伺う。

(1) イエナプランをモデルとした将来の公教育に取り組む考えは。

(※1) 「イエナプラン」

一人ひとりを尊重しながら自律と共生を学ぶ教育方法。異年齢のグループで対話、遊び、仕事(学習)、催しの四つの基本活動を循環的に行う。



教育長 日本イエナプラン教育協会によるイエナプランスクール認定は、現在のところ公立校では1校のみと実践例が少なく、子どもの性格が人と関わるのが極端に苦手な場合には、グループでの活動に過度なストレスを感じてしまうほか、学習指導要領に準じたカリキュラムとの両立や、イエナプラン教育を理解し体現できる教員の確保といった課題もあると聞いている。現時点において本町としてイエナプラン教育に取り組む考えはないが、他の教育方法と併せて今後の経過等について注視していきたい。



再質問 名古屋市内の全小・中学校ではイエナプランのエッセンスを一部取り入れ始め、他地域でも広がっている。本町の教育に生かせる部分があるのではないかと。



答 小中一貫教育の中で異年齢での学習活動の取組を進めており、今後、幕別小・中学校が一緒となった義務教育学校においては、そうした活動もより取組がなされると思っている。イエナプラン教育にこだわらず、今後においても注意深く検討していきたい。